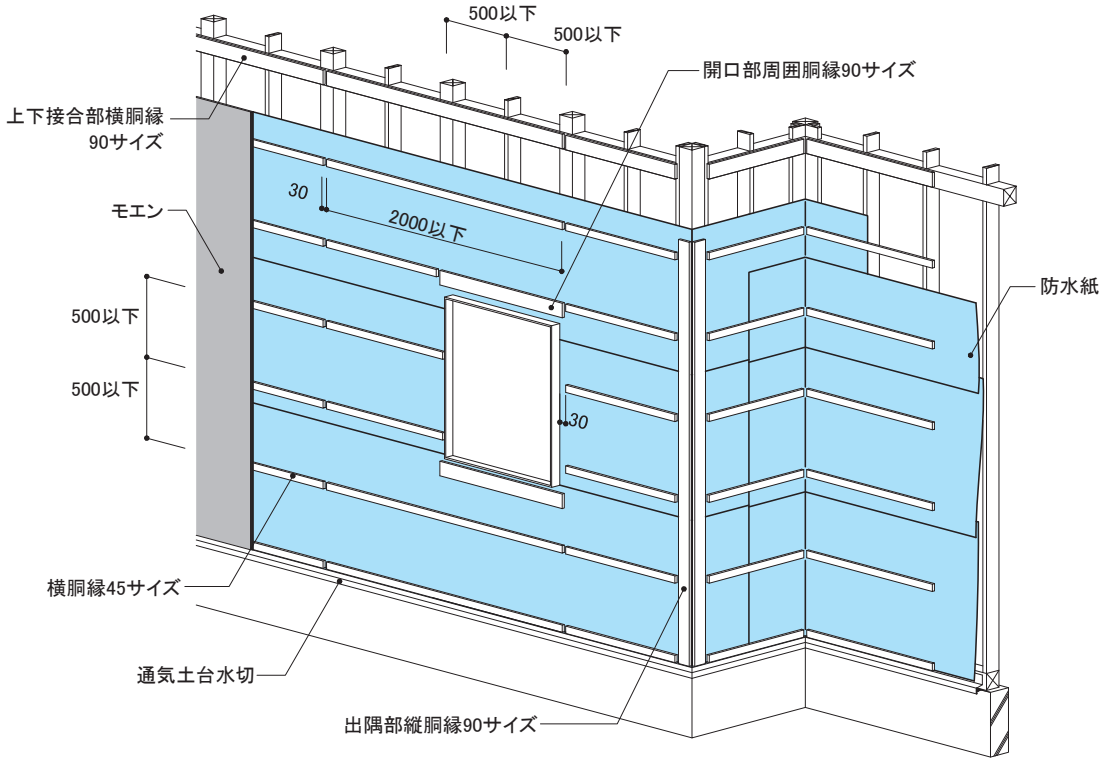
2－6　各部の納まり詳細図

木造軸組下地　縦張り　釘打ち施工

1）基本構成図・下地組図　横胴縁（1．5尺×10尺、3尺×10尺）

●通気土台水切は胴縁組みを行う前に取り付け、防水紙を上にかぶせて施工します。
●入隅部や出隅部などで、胴縁が躯体に留め付けられない場合は追加下地を設け、必ず下地に留め付けるようにします。
●下地組みは図のように木胴縁を使用し、スギ材は厚み18㎜以上、ベイツガ材は厚み15㎜以上の乾燥材を使用します。ただし、耐力面材がない場合は、厚み18㎜以上の乾燥材を使用します。
●木胴縁の幅は45㎜以上を標準サイズとし、出入隅部や開口部まわりなどの指定箇所には90㎜以上を使用します。
●木胴縁はN65、CN65以上の釘またはφ3．8㎜×50㎜以上のビスを使用して500㎜以下の間隔で躯体に留め付け、仕上げ面の不陸（段差）は3㎜以下となるように調整して施工します。
●下地組みは、必ず通気ができるように2000㎜以下の間隔で、30㎜程度の隙間を設けます。
●横胴縁と開口部まわりの胴縁は30㎜程度の隙間を設け、通気する構造とします。
●積雪地域では、積雪の高さまで補強胴縁を取り付けます。（P34参照）
●モエンは胴縁ごとに、モエン用釘（ステンレスリング釘φ2．5㎜×43㎜）で1．5尺品は3本、3尺品は5本留めします。
※モエン縦張り下端小口面および切断小口面は、モエンシーラーを十分塗布し乾燥後、切断小口が見える部分については専用補修液を塗布します。それ以外の部分はモエンシーラーを再度塗布します。



小口処理　モエン縦張り下端小口面および切断小口面は、モエンシーラーを十分塗布し乾燥後、切断小口面が見える部分については専用補修液を、それ以外の部分はモエンシーラーを塗布します。

釘頭　釘頭の補修は目立つ箇所のみとし、専用補修液を使用し、必要最小限の範囲に塗布します。